

佐賀市議会議員 自由民主党

たかひろ

いなば 嵩広

ごあいさつ

みなさま、こんにちは！いなば嵩広です。ようやく夏の暑さから解放され、過ごしやす秋の季節を迎えました。この秋に開催されます SAGA インターナショナルバルーンフェスタは海外チームの参加が再開され、過去最多 126 機のバルーンが佐賀の空を彩ることになりました。澄み渡った秋の空に色とりどりのバルーンが飛行する姿は見る人の心を弾ませ、思わず笑顔が溢れるものになることでしょう。また、この大会で佐賀を訪れてくれる選手や観光客の方々に佐賀の魅力を十分に伝え、佐賀の観光も同時に盛り上げなければなりません。官民一体となって実りの多いバルーンフェスタになるよう大いに期待したいですね！



佐賀市9月定例会のご報告

9月1日に開会しました定例会は令和4年度の決算審査と補正予算の審議をする議会です。決算では昨年度の事業が円滑に行われたのか、効果はあったのかを審議し、多くの意見、提言を反映させた付帯決議が行われました。また、補正予算では農林水産業に従事される方々や、医療・福祉・保育施設等に対し、燃油費高騰対策のための補助や先日の大雨による災害復旧に向けた予算などが可決されました。

令和5年度9月定例会補正予算 主な事業

医療・福祉・保育施設等物価高騰対応事業(保健福祉部) 約2億円

光熱費高騰の影響を受けている医療・福祉・保育施設等に対し令和4年度に続き応援金を支給することで事業者の負担を軽減し、事業の継続を支援するために要する経費です。

キャッシュレスポイント還元事業(経済部) 約1億8000万円

PayPayなどでのQRコード決済時に最大20%をポイントで還元し、市内外の消費を喚起し、市内経済の活性化を図るために要する経費です。

地域公共交通持続化支援事業(都市戦略部) 1,240万円

地域交通の担い手であるバスやタクシーの事業者に対し、運転手の確保や支払いのキャッシュレスなどのデジタル化の支援により、地域公共交通の維持・確保を図るための経費です。

一般質問

「市内中小企業、小規模企業者の振興を！」

佐賀市に本店を置く企業の約99%は中小企業や小規模企業者の方々です。佐賀市では地元企業へ優先発注を行うよう取り組んでおり、市内経済の下支えを行っております。その額は年間にして約180億円にも上ります。その支出の効果を更に最大化するために、市内経済の循環率を高めていく必要があります。本市の取り組みは十分でしょうか？

1 問 市内企業間の取引拡大のために本市が取り組んでいることは何か？

市内店舗(宿泊と飲食)と地元生産者・食品加工業者との商談会を実施している。今後も更に拡大していきたい。

2 問 民間消費を地域経済へ振り向けることは大きな経済効果が期待できる。そのための本市の取り組みは？

消費喚起のためにプレミアム付き地域振興券発行事業を行っている。今後も中小企業等の振興、地域経済の循環を高めていく取り組みを実施していく。

一般質問解説

本市では「佐賀市中小企業・小規模企業振興条例」に基づき、市内企業への優先発注に取り組んでいます。また、その効果を最大化するために市内経済の循環率を高める必要があり、市内企業間の取引拡大に取り組んでいます。効果的な政策を立案するのは非常に困難です。そこで、市内にある学術機関や金融機関などの有識者と連携し、中小企業振興のために効果的な政策を協議する会議体の設置を提案しました。

地域経済循環とは 地域内でお金を巡らせ、地域の経済を潤すこと

その他の質問 二酸化炭素分離回収事業(CCU)について

陸上自衛隊帯広駐屯地視察のご報告

8月7日から9日にかけて帯広市役所と陸上自衛隊帯広駐屯地の視察を行いました。今回の視察では駐屯地と共存している先進自治体を訪問し、市民・行政・駐屯地がどのような関わり合いを持っているのか、また駐屯地の立地自治体として、市民の方々の安心安全のためにどのような行政運営のノウハウを持っているのかを学んでまいりました。

1、駐屯地立地自治体としての行政運営

佐賀市では、駐屯地の立地による不安感を抱える方がおられます。そこで、帯広市役所では駐屯地立地自治体として、市民の方々の安心をどのように確保をしているのか質問しました。帯広市役所では駐屯地と密に連絡を取り、演習が行われる際は市役所庁内で「連絡調整会議」を設置し、市民からの問い合わせや、万が一事故が発生した際の庁内体制の確立がされていました。また、駐屯地における自衛隊の演習等の情報は市のホームページにて随時公表を行ってまいりました。

2、市民・行政と駐屯地の関わり合い

帯広市では「おびひろ氷まつり」という一大イベントが行われており、陸上自衛隊の隊員が氷の滑り台を製作しています。今やこのイベントの名物となっているようでした。また、市内で開催されるマラソン大会では駐屯地がコースの一部となっており、炊き出しの協力も行なっています。市民・行政と駐屯地が積極的に交流をし、地域とともに歩んでいると実感することができる象徴的なイベントです。また、2018年11月の地震が原因で発生した大規模停電時には避難所への炊き出しや電源の供給、給水等の支援を迅速に行っており、災害時の自衛隊の有効性が発揮されました。佐賀市においては、駐屯する部隊の安全な運用を望むことは勿論、地域にとってどのような貢献をしてもらうか具体的なイメージを持ち、行政が防衛省に対し、市政繁栄の明確なビジョンのもと、議論と要望を行っていく必要があります。



広大な敷地の帯広駐屯地。周辺には住宅街が広がっていました。



とても広いヘリコプター格納庫。佐賀空港駐屯地においても同様の施設が建設されます。



おびひろ氷まつり名物の氷の滑り台。長蛇の列が出来るほどの人気です。

佐賀市議会議員

たか ひろ
いなば 嵩広

〒840-0045 佐賀市西田代 2-1-9

TEL 0952-77-0836

WEB サイト



LINE



プロフィール

- ・1985年10月31日生まれ 東京都出身 成蹊大学法学部法律学科卒業。大学卒業後、リグナ株式会社というネット通販会社で経験を積む。
- ・その後、インテリア関係の商社、株式会社ジェイ・シータウン(主な取引先：株式会社飯田産業、防衛省ほか)にて多くの業務に取り組む。
- ・佐賀市西田代出身の妻と結婚した事で、佐賀にご縁を頂き、佐賀で子育てをしたいと妻に相談をし、6年前に移住。11歳の長女と6歳の次女、4歳の長男の子育て真最中!
- ・掃除や洗濯、お皿洗いなどの家事が日課で、休日は料理を担当することも。得意料理はパスタ全般。趣味は読書、料理、キャンプ、ランニング(桜マラソン2度の参加&完走!)
- ・経済産業委員会、広報広聴委員会、水害対策調査特別委員会、都市計画審議会所属

